

福井を舞台とした 大河ドラマの 主人公に



ゆりきよまさ 由利公正

五箇条の御誓文の
草案を起草し、
太政官札を発行した
福井の偉人



太政官札

明治元年(1868年)、
由利公正の発案により
発行された
全国通用紙幣

(福井県立こども歴史文化館蔵)

明治維新における由利公正の功績

- ①「五箇条の御誓文」の草案を起草
- ②我が国最初の全国通用紙幣である「太政官札」を発行
- ③新たな産業や資本主義の育成により、国家の近代化や国富を推進する「殖産興業政策」を推進
- ④東京府知事任命後に発生した大火を受け、銀座大通りの拡幅や不燃性の煉瓦建築等、「東京不燃化計画」を策定・実行
- ⑤板垣退助らと「民撰議院設立建白書」を提出し、政府に対して国民選出議員による議会開設を要望

由利公正

(1829~1909)



生没:文政12年(1829)~明治42年(1909) 幕末の福井藩士。明治維新まで三岡八郎を名乗る。西洋流砲術を学んだのち、横井小楠に師事し、福井藩の財政立て直しに力を尽くす。公正の財政手腕を認める坂本龍馬が、強く推薦した事で明治政府に登用され、政府の基本方針『五箇条の御誓文』の草案をつくる。



由利公正考案の「三岡へっつい」従来のへっつい(かまど)より燃料が節約でき火力も強いと言われている(写真:再現された三岡へっつい)

【各地の由利公正エピソード】

高知 肝胆相照らす仲 坂本龍馬



坂本龍馬から後藤象二郎に宛てた手紙には新政府の財政担当者に由利を推す旨の記載がある。由利と坂本龍馬とは大変気が合う仲で、龍馬二度目の福井来訪時、足羽川近くの山町の蓑屋(たばこや)旅館で、早朝から深夜まで延々日本の将来を語り合った。当時、謹慎中の由利には立会人として藩士が付き添ったにもかかわらず、龍馬は遠慮せずに「三岡、話すことが山ほどあるぜよ」と叫んだと伝えられる。

熊本 横井小楠との運命的な出会い



横井小楠の教えに従って、福井藩でも産業奨励を行うことになり、その責任者に由利が選ばれる。万延元年(1860)、横井小楠は福井藩の藩士として『国是三論』を起草したが、そのうちの「富国論」を実践したのが由利の財政再建策である。小楠が、福井へ赴いた年、弟死亡の知らせで一時熊本に帰国することとなったが、その際由利も同行し、毎夜、小楠と酒を酌み交わし議論を行った。この3年後、由利は再度熊本に小楠を訪ねている。

長崎・横浜 長崎、横浜に福井のアンテナショップ

由利は長崎に出張し、唐物商の小曾根乾堂の協力を得て、浪ノ平に越前蔵屋敷を設けた。その後、長崎江戸町に福井屋が開設され、そこを拠点に生糸等の輸出が行われる。同じように横浜にも出店が設けられ、販路開拓が図られた。

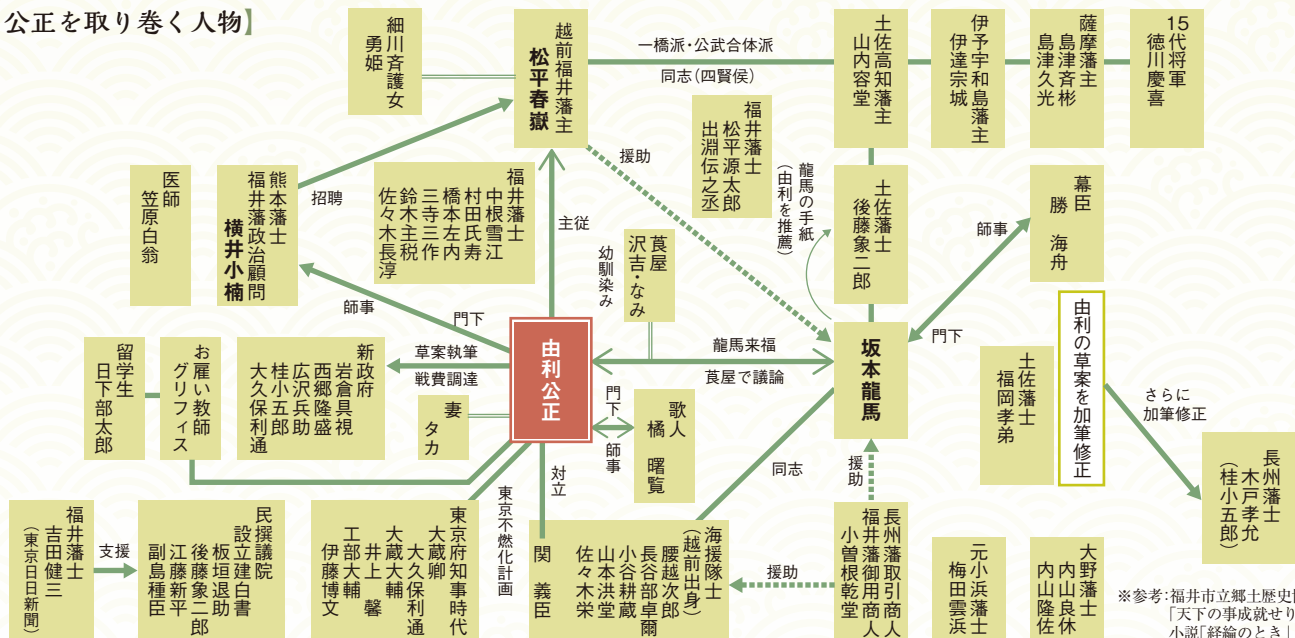


煉瓦銀座之碑 (銀座一丁目交番前) 碑文(拡大)

東京 銀座を煉瓦造りに~東京不燃化計画~

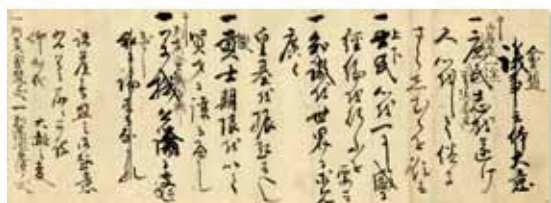
明治5年2月26日、和田倉門内兵部省から出火し、銀座、京橋さらに三十間堀から築地まで燃え広がり、5千戸、28万余坪を焼き尽くす大火となった。由利の公舎も類焼した。この火事をきっかけに、由利は銀座の街路の拡幅、煉瓦建築の導入等「東京不燃化計画」を作成し、実現を図った。

【由利公正を取り巻く人物】

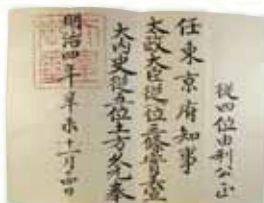


※参考:福井市立郷土歴史博物館「天下の事成就せり」小説「経緯のとき」

【由利公正関係資料】



議事之体大意 (福井県立図書館蔵)



東京府知事辞令 (福井県立歴史博物館蔵)



東京名所 銀座通 (福井県立歴史博物館蔵)